様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １６ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５０１１３８

研究課題名（和文）非母語話者日本語教師の教授不安に着目した指導モデルの構築

研究課題名（英文）Construction of Teaching Model for Non-native Japanese Language Teachers focus on the anxiety

研究代表者
西谷　まり（NISHITANI, Mari）

一橋大学・国際教育センター・准教授

研究者番号：８０２８１００４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,900,000円

研究成果の概要（和文）：非母語話者日本語教師の不安の実態を明らかにし、不安と失敗に着目した指導方法を開発した。
まず、外国人日本語教師不安尺度を作成し、外国人日本語教師の不安の構造を明らかにした。因子分析の結果、「学生との関係」「自分の日本語・日本文化理解」「授業実践力」の3つの要素が得られた。次に、失敗から学ぶことの大切さを強調するフィードバックを返す実験を行った結果、教師の不安を軽減し、日本語を教える意欲を高める結果が得られた。最後に、失敗から学ぶ方略を学ばせる目的でワークショップを行った。その結果、教師は失敗を意識化し生かす視点、失敗を怖がらない視点、及び、失敗の共有の視点を得た。

研究成果の概要（英文）：I clarified the actual situation of anxiety for non-native Japanese teacher, and I developed a teaching method that was focused on the failure and anxiety.
First, I created anxiety scale for foreign Japanese teachers and I revealed the structure of the anxiety of foreign Japanese teacher. Result of factor analysis, I obtained three elements ,that is " relationship with students" "my Japanese language and cultural understanding," "teaching practical skills". Then, I conducted an experiment that I return feedback focused on importance of learning from failure. As a result, I can reduce teacher’s anxiety and increase their motivation to teach Japanese.Finally, the workshop was conducted for the purpose of learn strategies to learn from failure. As a result, teachers learned three suggestions. That is" be aware of the failure" " to take advantage of the failure", and, " can not be afraid of failure".

研究分野：教育工学、日本語教育

キーワード：不安　失敗　非母語話者　日本語教師　指導モデル

１．研究開始当初の背景

研究代表者が担当している大学院科目「日本語教授法」「日本語教育実習」及び、海外教育実習では非母語話者が教壇に立つ際に訴える「不安」を何度も耳にしてきた。

学習者の日本語不安についての研究は行われているが、教える側の不安についての研究は見られない。しかし、日本以外の国で日本語教育に携わっているのは、ほとんどが日本語を母語としない現地の教員である。そこで、非母語話者日本語教師の不安についての研究が必要であると考え、フィリピンで調査を行った結果、教師たちが感じる不安は、主に自分自身の日本語能力に関してであり、経験が長い教師のほうが新人教師よりも不安が高いことが分かった。

また、従来の言語不安に関する研究は言語不安の高低に着目しているが、研究代表者は、不安の高低よりも不安の解釈、失敗に対する認識が教育効果に強く影響しているという仮説を立て、言語不安と動機づけが失敗に対する認識を介して学習方略の使用にどのような影響を及ぼしているのかを調査した。その結果に基づき、学習方略使用に働きかけることで、不安の解釈の改善を図り、それが再び学習方略使用の促進へとつながるというスパイラル的関係を想定した。方略指導の無い統制群、方略指導を行う実験群に分けて e-learning 教材で実験を行った結果、実験群は不安を促進的に捉える傾向が高まったことが明らかになった。教師教育においても、このモデルを応用しようというのが本研究の背景である。

２．研究の目的

日本各地の大学・大学院・民間の日本語教師養成機関及び、海外各地で日本語教師の養成が行われている。文型・語彙の教え方といった日本語そのものについての指導については、ノウハウが蓄積されているが、教授不安等についての情意的問題には焦点があたっていない。特に非母語話者日本語教師が教壇に立つに際し、彼らの感じる不安は高い。本研究では、非母語話者日本語教師及び日本語教師志望者の「不安」の内容を明らかにし、教師志望者の不安特性のタイプに応じた教師養成のモデルを構築することを目的にすることである。

３．研究の方法

日本語教師が教壇にたつ時に感じる不安とその解釈に関する調査項目を確定し、非母語話者日本語教師・教師志望者、母語話者日本語教師・教師志望者の調査を行い比較対照のなかから、非母語話者日本語教師・教師志望者特有の項目を抽出した。さらに、調査に基づいて、不安特性（不安及びその解釈）に応じた指導方略の使用を促すモデルを構築し、実証研究を行った。

４。研究成果

非母語話者日本語教師の不安の実態を明らかにし、不安と失敗に着目した指導方法を開発し、効果測定を行った。

まず、外国人の日本語教師が有する不安について、先行研究と PAC 分析を援用したインタビュー調査を基に不安尺度を作成した。PAC 分析は、質的分析とクラスター分析を組み合わせた研究法である。先行研究と PAC 分析から作成した調査項目は、20 項目である。

外国人日本語教師不安尺度

1. 授業中に予想外の質問がでたらパニックになるのではないか不安だ
2. 学生の日本語力のばらつきに対応できるかどうか心配だ
3. 学生たちとうまくやっていけるか心配だ
4. 中国（ベトナム）語をどのぐらいの割合で使用すればよいかわからずに不安だ）
5. 母語との違いをどこまで説明したらいいかわからず不安だ
6. 学生が日本語に関して持っている不安を取り除けるかどうか自信がない
7. 自分でわかっていることを授業でわかりやすく説明できるか不安だ
8. 教案がきちんと書けていてもその通り授業はいかないのではと不安だ
9. 日本語だけでなく日本文化をうまく伝えられるか不安だ
10. 授業でとりあげる例文が学生にとってわかりやすいか不安だ
11. 学生が授業中よく反応してくれるか心配だ
12. 学生との距離をどうやって縮めるかわからず不安だ
13. 学生に自分の日本語を信頼してもらえるか心配だ
14. 自分が文法を正しく使えているか不安だ
15. 自分の発音は正しいか不安だ
16. 自分が日本文化を正しく理解しているか不安だ
17. 今後日本語がうまくならないのではないかと不安だ
18. 学生の間違いをきちんと直せるか不安だ
19. 学生の質問にきちんと答えられるか不安だ
20. 新しい日本語を学生のほうがよく知っているのではないかと心配だ

因子分析の結果、「学生関係」、「自分の日本語・日本文化理解」、「授業実践力」の 3 つの要素が得られた。日本語教師教育では、「授業実践力」を高めることが重視されることが多いと予想されるが、「学生関係」についての指導及び、教師自身の日本語・日本文化の力を高める指導も重要で

あることが示唆された。（雑誌論文①）。

上記で開発した尺度を用いて、ベトナムと中国の外国人日本語教師を対象に質問紙調査を行って、外国人日本語教師の不安の実態を探った。外国人教師と外国で教えている日本人教師の不安を比較したところ、不安平均には有意差がみられないが、「学生関係」のみ日本人教師の不安が有意に高かった。また、中国人教師とベトナム人教師との比較では、不安の平均値と「学生関係」因子は、中国人教師の不安が高く、そのほかにも、中国人教師の不安が高い項目が多いことが明らかになった。（学会発表④）

さらに、非母語話者の日本語教育実習において、教師がどのようなフィードバックを行うことが効果的であるかを明らかにする実験を行った。非母語話者の学生に対して、「学生関係」「自分の日本語・日本文化理解」「授業実践力」について他者評価と自己評価を行わせるとともに、「授業計画」「授業運営」「教授行為」「教材」等について、実際に起こった出来事、原因、評価、改善策などをリフレクションシートに記述させ、それを基に研究代表者が実習生の自己評価の変化をグラフ化し、リフレクションシートに記述された失敗や不安について書かれた文言を中心に「失敗や不安こそが改善につながる」という立場からのフィードバックを返した。その結果、自己評価の可視化と失敗から学ぶことの大切さを強調するフィードバックを返すことは、実習生の自信を高め、「学生関係」等で気づきが深まっていることがわかった。さらには、情意的なフィードバックだけなく、具体的な授業改善につながる認知的フィードバックも重要であることが示唆された。（学会発表②③）

平成 26 年度に行った研究とその結果について述べる。ベトナムで日本語を教える日本人教師に対して、失敗から学ぶ方略を学ばせる目的でワークショップを行い、失敗に対する意識の変化について考察した。ワークショップの内容は、以下の通りである。

①事前調査
②失敗から学ぶことについての講義
③テレビ番組視聴
④グループ討論
⑤まとめ
⑥事後調査

講義では、まず、失敗の定義「人間が関わって行うひとつの行為が、はじめに定めた目的を達成できないこと、望ましくない予期せぬ結果が生じること」を提示した。そして、「失敗とのつきあい方いかんで、その人は大きく飛躍するチャンスをつかむことができる」ことを述べ、その例として、「Failcon（フェイルコン）」を紹介した。フェイルコンは、失敗とカンファレンスを組み合わせた造語で、日本語で言えば「失敗座談会」と訳せる。そのキャッチコピーとは　「恐れるのはやめて、失敗を抱きしめよう」というものである。

テレビ番組は、NHK プロジェクト X 挑戦者たちから「日米逆転! コンビニを作った素人たち」を視聴した。約 40 分の番組で、視聴の前に「登場人物たちはどんな失敗をしたのか、その失敗にどのように対応したのか」注目するように伝えた。

グループ討論では、テレビ番組の中で、どのような失敗があり、それをどのように克服していったのかを３つのグループに分かれて議論し、その内容を発表させた。

まとめの部分では、以下のことを共有した。

1.自分の失敗から学ぶ
2.他人の失敗から学ぶ
3.つまづきを共有する
4.良い失敗と悪い失敗との区別
5.失敗が起きる前にできることはないか
6.失敗と思っているか、災難と思っているか

事前調査の結果、内的動機づけと失敗を肯定的に捉える「失敗の効用認識」とは強い相関関係が見られた。次に、ワークショップの前後で、失敗の効用認識が高くなったかどうかについては、統計的有意差は見られなかったが、事後調査の自由記述からは、失敗を意識化し、それを生かす視点、失敗を怖がらない視点、及び、失敗の共有の視点が得られたことが明らかになった。（学会発表①）

本研究の成果は以下のようにまとめられる。非母語話者日本語教師の不安尺度を作成し、その不安尺度を用いて、ベトナムと中国の日本語教師に対する調査とその分析を行ったほか、失敗に着目したフィードバックを行うなどの実験を行った。その結果、非母語話者日本語教師の不安と不安の解釈（失敗）に着目した指導は、ある程度効果的であることが明らかになった。

本研究は、一橋大学言語社会研究科修士課程の修了生の論文「母語話者日本語教師の不安尺度の開発―新しい教材を教える場面に着目してー」（一橋大学国際教育センター紀要第 6 号、2015 年 7 月刊行予定）、及び、一橋大学言語社会研究科修士１年の学生の研究テーマ「タイ人日本語通訳の不安についての研究」等につながり、さらなる発展が期待できる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①<u>西谷まり</u>「外国人日本語教師不安尺度の開発」一橋大学国際教育センター紀要 4 号、pp.2-14、2013、査読なし
http://ci.nii.ac.jp/naid/120005440279

〔学会発表〕（計 6 件）

①<u>西谷まり</u>「失敗から学ぶワークショップの実践」日本教育工学会研究報告会（2014.12.15　椙山女学院大学　愛知県名古屋市）

②西谷まり「非母語話者の日本語教師教を養成する際の不安と失敗に着目したフィードバック」日本教育工学会研究報告会（2014.3.1　愛知工業大学　愛知県豊田市）
③西谷まり「非母語話者の日本語教育実習における効果的フィードバック」日本語教育学会東北地区研究集会(2013.11.6　東北大学　宮城県仙台市)
④西谷まり「外国人日本語教師の不安」日本教育工学会研究報告会（2012.12.15　学芸大学　東京都小金井市）
⑤西谷まり「非母語話者日本語教師志望者の教授不安」日本語教育研究国際大会（2012.8.18　名古屋大学　愛知県名古屋市）
⑥西谷まり「非母語話者日本語教師の教授不安」日本教育工学会研究報告会（2011.10.29　島根大学　島根県松江市）

６．研究組織
(1)研究代表者
西谷まり（NISHITANI, Mari）
一橋大学・国際教育センター・准教授
研究者番号：80281004